

事務事業チェックシート

事務事業No 565 事業名 小学校交流事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業種別	継続	
事業期間	平成13年 ~	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画	和歌山市教育振興基本計画	
担当課・担当課長 (Tel)	学校教育課	東 康修 (435-1139)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		小学校費	
	目		学校管理費	
	大・小事業		小学校管理事業	
事項		小学校交流事業		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	対象：加太小学校5年生 目的：川上小学校4～6年生と交流し、様々な体験を通じて人間形成に役立てる。	加太小学校5年生の児童が、7月下旬に1泊2日で川上村を訪問し、森と水の源流館や大滝ダムを見学するとともに、川遊び、アマゴ取り等を体験する。その数日後、逆に川上小学校の4～6年生が加太を1泊2日で訪問し、海水浴、海釣りや料理教室等を体験する。				
実施内容	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深めた。	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深めた。	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深めた。	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深める。	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深める。	

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	351	348	351	348	345	332	305		305	
伸び率 (%)	-	-	0.0%	0.0%	▲1.7%	▲4.6%	▲11.6%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	1,089	1,055	1,055	1,236	1,177	1,296	1,222	1,222	
	正規職員以外									
小計	1,089	1,055	1,055	1,236	1,177	1,296	1,222	1,222		
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源 (税等)	351	348	351	348	345	332	305		305	
所要人数 (人)	正規職員	0.15	0.14	0.14	0.16	0.16	0.16	0.15	0.15	
	正規職員以外									
主な予算内訳	手数料30千円、消耗品費87千円、自動車借上料172千円ほか									

3 目標及び実績

指標	指標名	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
活動指標	交流回数	回	2	2	2	2	2
			2	2	2		
			100.0%	100.0%	100.0%		
成果指標	川上小学校を訪問した加太小学校児童数	人	19	11	10	14	8
			19	9	10		
			100.0%	81.8%	100.0%		
	加太小学校での交流会参加児童数	人	19	11	10	14	8
			19	9	10		
			100.0%	81.8%	100.0%		

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない		見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	平成13年度からの交流により、互いの住む地域の自然や人々と触れ合う活動を通して友情を温めるとともに郷土愛を育んでいることから、現行のまま事業を継続することが適当である。
見直し・改善内容	加太小学校の児童数が大幅に減少しているため、バス代などの一人当たりの費用が割高になってしまっている。また、川上村の川上小学校の児童数も大きく減少していることも、今後検討していく必要があると考える。